

GPでもできる反対咬合の早期治療、BOOK [目次]

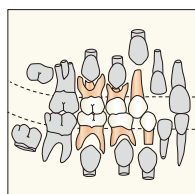
はじめに 3



▶ 様子を見るべきか、早期治療の開始か 6

▶ 不正咬合は歯列だけの問題か 9

▶ 保護者が矯正治療を希望する時期 11



▶ 小児歯科と一般歯科との治療概念の違い 12

▶ 最も大切な診査事項は年齢 15

▶ 歯列を取り巻く口腔の環境を考える 18



▶ 反対咬合を考える 19

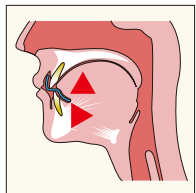
▶ 反対咬合の自然治癒 20



▶ 機能性反対咬合の考察 23

▶ 乳幼児の反対咬合はなぜ自然治癒しやすいのか (解剖学的考察) 25

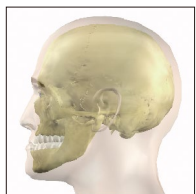
▶ 低位舌による機能性反対咬合の発症 28



▶ 舌のポスチャー (姿勢位) を考える 29

▶ 機能性反対咬合の治療方法 30

▶ パナシールドPMの適応症 41



▶ なぜ反対咬合が発症するのか 49

▶ 生体の成長を考えよう 52

おわりに 63